

8 英語教育 英語科教育法 河原俊昭 免許科目（中高一種免許状・英語）

No	テーマ	学修到達目標	内 容	課題
第1講	オリエンテーション 世界の英語教育の潮流 変化する英語教育と学校教育における対応 小学校の外国語の学習指導要領	小学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について説明できる。 学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について説明できる。	指導要領の歴史について調べる。 各国において、指導要領がどのように影響するか表を作成する。 英語学習への各国の態度の時代的な変化を知って説明できる。 国際化時代の英語教育の在り方を説明できる。	各国の学習指導要領の事例を集める。 日本の学習指導要領と比較する。
第2講	小学校の外国語（英語）の教科書	教科書の意味の歴史的な変遷を説明できる。 教科書以外に必要な教材を説明できる。	これからの時代の教科書のあり方を説明できる。 電子黒板、iPad、iPhone などの活用法について実践して検討する。	複数の教科書を調べ、それを比較検討する。
第3講	3つの資質・能力ならびに、到達目標の設定、年間指導計画の説明	「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」）の指導及び各領域の内容について説明できる。 それらを支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導法について説明できる。	3つの素質・能力の内容を説明できる。 5つの領域の指導法の基礎を説明できる。 すぐれた指導法の動画を見て、どこがすぐれているか説明できる。	自分が教員となったときの授業内容の到達目標を定める。
第4講	小学校学習指導要領と小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方	初等教育、中等教育のそれぞれにおいて必要な英語教育を説明できる。 有機的で継続的な英語教育について説明できる。	小学校、中学校、高校のそれぞれのレベルでの英語教育の実態を知る。 各段階での接続でどのような問題が生まれるか説明できる。	各自の受けた英語教育に関するレポートを提出する。
第5講	聞くことの指導と模擬授業	聞くという「能動的な」行動について説明できる。 聞くことにおいて脳神経の機能を説明できる。	ディクテーションやシャドーイングの指導法を訓練する。 すぐれた指導法の動画を見る。 模擬授業を行う。	ディクテーションを課する。
第6講	読むことの指導と模擬授業	ボトムアップとトップダウンの2つの読み方について説明できる。 背後にあるスキーマの意味を説明できる。	絵本の読み聞かせを指導する。 すぐれた指導法の動画を見る。 模擬授業を行う。	自らの動画を作成する。
第7講	話すこと〔やり取り・発表〕の指導と模擬授業	話すこと（Conversation, Public Speaking）の2つの行動の違いを説明できる。	すぐれた指導法の動画を見る。 模擬授業を行う。	自らの動画を作成する。
第8講	書くことの指導と模擬授業	年齢による書くことの意義の違いを説明できる。 幼少期に相応しい書き言葉とは何かを説明で	絵本とすぐれた英文をつなげる。 模擬授業を行う。	幼児向けの教材の自作を行う。

		きる。		
第9講	複数の領域を統合した言語活動の指導と模擬授業	個々の領域と全体の領域との関係性を説明できる。 全体的な能力を伸ばす授業とは何かを説明できる。	全体的な能力を伸ばす授業をデザインする。 模擬授業を行う。	授業デザインの見直しを行う。
第10講	英語の音声的な特徴に関する指導	音声学の基本的な知識を説明できる。 口蓋図を説明できる。 国際音声記号を説明できる。	母音や子音とは何かを説明できる。 いわゆる日本人には苦手な音の出し方を説明できる。 ディクテーションとシャドーイングの練習を行う。 日本語の音声との比較を行う。	音声のディクテーションを行う。
第11講	文字の指導	大文字や小文字の成立した歴史を説明できる。 英語初心者の間違いやすい筆記について説明できる。 初等教育において、どの程度まで書き言葉の指導を行うか説明できる。	どの程度まで文字の指導を行うべきか説明できる。 ペンマンシップなどを調べる。	文字指導に関するレポートを作成する。
第12講	語彙、表現に関する指導	語彙の豊かさと表現の豊かさの関連について説明できる。 難解な語彙の言い換えを行うことができる。	状況、場面に応じた語彙の増やす方を検討する。 どのような語彙提供の仕方がもっとも語彙の定着に結びつくか説明できる。	初等教育の児童に相応しい語彙表を作成する。
第13講	文法に関する指導	歴史的文脈において、文法訳読法が果たした枠割りを説明できる。 現代においての、文法知識の重要性を説明できる。	高校レベルの文法書を分析して、どこが分かりづらいか、どのように書けば分かりやすくなるか説明できる。	文法指導に関するレポートを作成する。
第14講	異文化理解に関する指導	伝統的な西洋と東洋との二限対立の分類から、多次元化しつつある現代文化を説明できる。 文化と言語の関係について説明できる。	世界に多発する民族問題と言語の事例を収集する。 多文化共生社会とはどのような社会であるか調べる。	関連する情報をテレビ・新聞などで収集する。
第15講	教材及びICTの活用	複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 教材としてのICTの活用を説明できる。	将来の英語教育、英語教材、について説明できる。 AIを用いた英会話の練習の可能性について説明できる。 機械翻訳を説明できる。	Google 翻訳、DeepL 翻訳、ChatGPT 翻訳を比較する。